

み

ん

な

の

芸

中田久恵選 投稿数21首

引間豊作選 投稿数20句

オトシ文 猫鼻つけて通る道

下日野沢 新井

進

(評)落し文とは、昆虫綱甲虫目オトシブミ科の昆虫の総称。この類は、檜・櫟・栗の木などの葉を巻いて巻物の書状に似た巣を作り、卵を産みつける習性をもつ。幼虫は内部に巻かれた葉を食べて成長し、その中で蛹になる。巣を切って落とすことがあり、形が手紙に似ていることから「時鳥の落し文」「鶯の落し文」と見立てて名づけられたもので、それが転じて虫の名になつた。猫は落し文の臭を嗅ぐだけで、何事もなかつたかのように通り過ぎて行つた。

髪少し短かめに切り大暑かな

三沢 鈴木 貞恵

金魚草水無き空に彩かかげ
とうとうと耀く夏の千曲川

三沢 新井 弘延

手加減といふこと知らぬ猛暑かな
一丁前の形し青柿落ちにけり

皆野 市川 岳樹

皆野 大沼シズ子
万縁の水鏡して湖の風

三沢 長谷河ソノ

涼しさも暑さも峠萩の花

皆野 加藤マリ子

夏茗荷いつの間にやら花さいて
金崎 堀口あいの

三沢 澤野 恒平

余生とはコップに活ける薔薇の花
下田野 藤原 道男

皆野 根岸 詩子

くちなしや朝に咲いて友は逝く
陽炎の打ち水残し夏の涼

皆野 源氏 和幸

神座の景色晴れゆく合歓の花
下田野 藤原 道男

皆野 根岸 詩子

三沢 澤野 恒平
かげろ
くかな
かげろ
くかな

戦争を知らぬ世代に特攻の若者の死を語り部は継ぐ

三沢 鈴木 貞恵

三

下日野沢 皆野 新井 浅見 豊子

三

豊田喜美恵

三

新井 愛子

三

長谷河ソノ

三

新井 民子

三

打木

三

新井 民子

三

根岸

三

新井 民子

三

真下

三

横田

三

保科

三

市川

三

岳樹

三

龍雲

三

從道

三

昭広

三

和幸

三

杏子

三

詩子

三

叶子

三

下日野沢

三

皆野

三

皆野